



蜂っ子が 21世紀のベストビジネス大賞 ノミネートされました!!

平成13年8月10日、書籍『21世紀のベストビジネス大賞』が全国書店にて発売されました。

本書は、21世紀を迎えた現代において最もアイデアに優れ、新たな時代が求める画期的なビジネスとして『21世紀のベストビジネス大賞』に表彰された注目の商品、企業、人物を紹介したもので、それぞれの大賞をうけた理由や、その優れた長が掲載され、そのビジネスに関する様々な情報・知識が満載されています。

表彰にあたった「21世紀ベストビジネス大賞実行委員会」(日本消費問題研究会)は、作家・タレント・リスナー・読者・一般消費者・ラジオパーソナリティ・ジャーナリストなどで構成され審議がおこなわれ、世に出ているあらゆるジャンルの商品や情報・サービス・ビジネスの中から今世紀、何が日本の消費文化をリードするかという視点で議論が交わされました。

本書は住まいと暮らしの部門、トレンド&ホビー部門、電化製品部門、PC部門、生活情報部門、美容部門、健康部門、シルバー&介護部門、レジャー&物産部門の各部門より合計280件の大賞ノミネートが掲載され、各部門より12の大賞とともに紹介されています。

書籍『21世紀のベストビジネス大賞』は日経新聞、毎日新聞の告知で話題を呼び、同時期、FMラジオ番組「Pin up」(SHIBUYA-FM東京78.4MHz、8/25土曜日AM10:00~10:58)の番組にて放送。また同書はインターネット対応BOOKとして下記のアドレスにても情報閲覧が可能。
<http://www.mrpartner.co.jp/business/>

素晴しきミツバチの世界

養蜂とはハチミツの素晴しさとは。永年蜂を愛し続けてきた久世佳弘氏が語る、素晴らしいミツバチの世界!!

秋からの働き蜂

養蜂家は、秋口になると蜂蜜の採蜜をやめ、春から夏にかけて美味しい蜂蜜を提供し続けてくれたミツバチのために冬の食料としての蜂蜜を確保してきます。また、病気がないか、越冬用の蜂蜜が十分あるかなどを点検してミツバチの輸送のための荷造り、蜂箱の集結をして本州方面から来ている養蜂家は九月中旬から下旬にはミツバチを北海道に置いたまま一度家に戻ります。その後、十月下旬から十一月月上旬にかけて大型トラックでそれぞれ越冬地に移動し翌春花が咲くまでは一服状態。



以上が従来の一般的なミツバチの行動パターンですが、最近では多少事情が変わってきました。それは、ミツバチによるくだもの類の花粉交配の仕事が近年多くなってきたため、ミツバチもゆつくりしている時間が増え、少なくなりました。本州ではクリスマスケーキに使うイチゴの花粉交配の



株式会社札幌山本養蜂園社長
久世佳弘
TEL 011-873-3838
住所 札幌市白石区北郷2条7丁目6の13
事業内容 ハチミツ関連商品
養蜂器具卸販売

採ることだけが仕事だった養蜂家も、このようにして果実の開花に合わせて、花粉交配のためのミツバチを貸し出す仕事やミツバチの手入れ、餌蜜の補充もしなくてはなりません。また、花粉交配に貸し出すミツバチを夏のあいだに育成もしておかなければなりませんからハチヤさんも忙しい一年です。

以前はハチミツを活躍しています。

仕事が十月から始まるからです。イチゴの花粉交配は翌年二月頃まで続きます。

一方、一月下旬からはウメ、二月中旬からは北海道でもメロンの花粉交配がぼつぼつ始まります。それ以外にも、カキ、ナシ、モモ、サクランボ、リンゴ等、果実の受粉作業がつぎつぎとあり、またタマネギなど、純粋種子を採種するためにもミツバチは活躍しています。